



静岡別院

2026年度 静岡別院法話

べついんさんの公開講座



時間
午後2時～

聴講無料
申込不要

- 4/13 (月) 「そのつみ、ふかく、おもくして」
藤川 秀行 師 (滋賀 託仁寺 住職)
- 5/13 (水) 「絶対のひとりぼっち」
木名瀬 勝 師 (茨城 東本願寺研修部 元主任)
- 6/13 (土) 「その後の親鸞聖人」
瓜生 崇 師 (滋賀 玄照寺 住職)
- 10/13 (火) 「^{ぶつ}い、^はかり^がたし」-阿弥陀さんに「本願」はなかった-
武田 定光 師 (東京 因速寺 住職)
- 11/13 (金) 「現世利益と念仏」
棚橋 めぐみ師 (岐阜 正源寺 衆徒)
- 2027年 2/13 (土)
「愚禿という人間像」
本多 雅人 師 (東京 蓮光寺 住職)

▼会場【静岡別院本堂】



真宗大谷派 静岡別院



〒420-0028 静岡市葵区屋形町10



054-253-1737



shizuokabetuin@ion.ocn.ne.jp



講師より



4/13 藤川 秀行 師（滋賀県 託仁寺 住職）

仏法、とりわけ浄土の教えは、人間を深く見つめてきました。それは、人間という存在の深さを示しています。仏法は人間をどのように見出してきたのか、教えの言葉に尋ねてみたいと思います。



5/13 木名瀬 勝 師（茨城県 東本願寺研修部 元主任）

親鸞聖人の人生の転換点は29歳の時、六角堂に百日の参籠をし救世菩薩の誓願に呼応したことです。聖人はいったいどんな悩みを抱えていたのでしょうか。菩薩との出あいは何を意味するのでしょうか。「地獄一定とは茫茫たる宇宙唯一の孤独な自己の発見」という言葉を便りに一緒に考えてみましょう。



6/13 瓜生 崇 師（滋賀県 玄照寺 住職）

29歳の時に比叡山を降り法然門下となった親鸞聖人ですが、教団は弾圧にあい聖人も越後に流罪になります。後半生の苦難の人生を通じて、それでも聖人が守ろうとした念仏の教えとは何かを尋ねていきましょう。



10/13 武田 定光 師（東京都 因速寺 住職）

親鸞聖人は、阿弥陀さんの心など、凡夫には「分からん」と言われている。この「分からん」を迷いの言葉として聞くか、サトリの言葉として聞くか。その一点が我々に問われている。果たして、阿弥陀さんに「本願」などを発す余裕があるのだろうか。



11/13 棚橋 めぐみ 師（岐阜県 正源寺 衆徒）

私は日々カウンセリングや占い、ヒーリングをしています。全国津々浦々から、悩みを抱えた方が私の目の前にやってきます。一見、浄土真宗と全く関係ないと思われる事かもしれませんがこの仕事を通して現代人の苦悩と、私自身の現在地を日々問われながら、人間として生まれた喜びの道をお客様とともに歩もうとしています。そんな現場から私が受け取らせていただいた、信仰と念仏のお話しをさせていただけたら幸いです。



2027 2/13 本多 雅人 師（東京都 蓮光寺 住職）

公開講座は2010年から始まりました。私は始まりから毎年法話をさせていただいています。当初は参加者もさほど多くなかったのですが、今やかなり増えました。真宗の教えは路地裏のラーメン屋台のようなもので、じわじわと人が増えていくのです。自我が暴走する現代において、人間を映し出す鏡たる阿弥陀さんの教えが時機相応の教えであることを感じます。